



建 第 5 5 1 号
平成20年10月22日

国土交通省道路局長 様

さくら市長 秋 元 喜 平



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

貴職におかれましては、日頃より道路行政の推進にご尽力いただき、御礼
申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け、国道企第37号により依頼のありまし
た、今後の道路行政についての意見・提案の提出について、別紙のとおり提
出いたしますので、よろしくお願いいたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

栃木県さくら市

道路整備特定財源制度が作られた時代と現在では、少子高齢化や景気低迷等による財政の硬直化など、人口、税收等の右肩上がりの予測から大きく見直しをすることが急務である。

地域の振興、災害等緊急時に対応できるネットワークの構築、住民の安全・安心な生活を第一に考えて画一的でなく、地域の特性に合った道路行政を進めてもらいたい。

今後の道路行政についての意見・提案

② - 1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

栃木県さくら市

○ 現状

さくら市は平成17年旧氏家町と喜連川町が合併して誕生し、県都宇都宮市に接し、市の西部を東北自動車道路、国道4号が縦断し、南部を国道293号線が横断また、東北本線（宇都宮線）の駅が2駅あるなど優れた交通の利便性を有している。

また、最近、喜連川社会復帰促進センターの開所、本田技研の進出、都市圏への通勤圏として便利なことや区画整理事業により人口増加傾向にある。

土地利用としては、喜連川工業団地、蒲須坂工業団地、本田技研等の工業用地と水稻を基幹作物とした農業や肥育牛、養豚といった農業用地、また大規模店の出店等による商業用地とバランスのとれた土地利用が図られている。

このような中道路事情は、国道4号、国道293号を主軸に県道、市道が補完する形となっているが、都市計画道路の整備状況は1.5路線（24.98km）中7路線（14.11km）を整備、また喜連川地区では幅員5.5m未満の道路が過半数以上という状況にあり、氏家地区では、国道4号を利用した南北方面の通過・アクセスとなるトリップが多く、29,000台/日で大型車混入率34.2%と高く、また県道大田原氏家線とあわせ南北交通の主要道路の交通渋滞が慢性化している。喜連川地区では道路整備率が低く排水施設の整備、幅員の拡張等生活に密着した道路改良が求められている。

○ 課題

首都圏へのアクセス道路（幹線道路）の充実

国道4号、国道293号等に集中する交通量の分離化

歩道設置、排水施設・幅員拡幅等安心安全な道づくりの推進

交通安全対策・・・41億 700万円

生活確保対策・・・41億9,900万円

活性化対策・・・5億3,300万円

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式 ③

栃木県さくら市

少子高齢化や世界的な景気の不透明感の増大中、福祉・教育の充実、多種多様化する市民ニーズに応える施策展開のための財源確保に大変苦慮しているところがあります。

このようなか、当市においては、合併から4年を迎え、さくら市振興計画に沿って、「自立できる財政運営のもと、活力があり安心して暮らせる街づくり」を目指しております。

道路行政については、平成19年、新たに「さくら市道路マスタープラン」を策定し、国・県道整備と調整を図りながら、「必要な道路を、必要な時期に、必要な水準で」をコンセプトとして進めてまいります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

栃木県さくら市

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
・地域活力の向上 ・バリアフリー社会の形成 ・地球温暖化の防止	○ 代表事例 ・一般国道4号 本道路は、関東と東北を結ぶ物流の大動脈で、国道の中でも最長の道路である。 栃木県内においては、ほぼ中央を通過する道路として、沿線地域を広域的に結ぶと共に、地域の暮らしや産業を支え、社会経済発展に重要な役割を果たしている。	○ 期待する効果や評価等 ・近年では、交通量の増加と急激な沿線開発、産業流通活動の増加により、各所で交通渋滞が発生している。 本道路が整備されることにより、交通機能が向上し、安全性も確保され、併せて地球温暖化の抑制にもつながる。	○その他